

高原の風だより

2024 (令和6) 年1月 発行 <第27号>

令和6年 木曾町消防団出初め式

自分たちの地域は自分たちで守る



福島上町を力強く分列行進する消防団員(1月6日)



山田真教団長

木曾町消防団出初め式が1月6日、木曾文化公園などで行われた。当日は、消防団員159人が出動。能登半島の地震や北九州の火災等全国で災害が相次ぐ中、「自分たちの地域は自分たちで守る」防災への思いを新たにした。

最初に文化ホールで式典が開催された。山田真教(やまだまさのり)団長は式辞の中で「昨年、団員数が300人を下回った。伝統と格式を重んじつつも変革が必要」と訴えた。

また、「昨年5件の火災が発生したが、一人暮らしや高齢者世帯の火災が多くを占めている」とし、さらなる予防消防の必要性を呼びかけた。

式典では永年勤続の団員らを表彰したほか第6分団(上村孝分団長)には無火災章が贈られた。そのほか千村隆宏前副団長(開田高原)ら21人に消防庁や県知事から退職報償が授与された。

式典の後、駐車場で通常点検の訓練を行い福島へ移動。12分団の団員がラッパや打楽器の演奏に合わせて上町から本町まで約200メートルを力強く分列行進。来賓者や住民のほか、今年初めて認定こども園の子どもたちも防災服を身にまとい旗を振って声援を送った。



分列行進では団員の後に消防車両が続いた

～安心・安全なふるさとを目指して～

住民の暮らしを守る消防団



消防団の火災想定訓練で、分団ごとに整列する団員ら

団員数の減少が大きな課題

消防団の抱える課題はたくさんあるが、中でも団員数の減少は深刻な問題だ。平成17年に町村合併し、翌年の平成18年4月1日時点で522人を数えた団員数が、昨年4月1日には280人。この18年間で240人余り(▲46%)も少なくなっている。

この間、消防団でもただ手をこまねいていたわけではなく、団員数の減少によって防災力の低下につながるようさまざまな方策を講じてきた。その一つが各支団の廃止と分団体制の再構築だ。これによって現在は12の分団体制が整備された。ただ、地域によって分団の人数は異なり、少ない分団は団員が14人ほど。過日行われた分列行進でも分団長以下3人という状況も見受けられた。

木曾町は県内58町村の中で476平方キロメートルと、最大の面積を有している。この広大なエリアをわずか280人の団員でカバーしており、団員減少は将来に向けて大きな課題になっている。

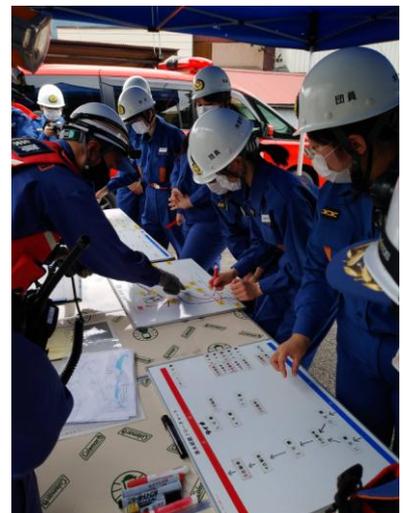
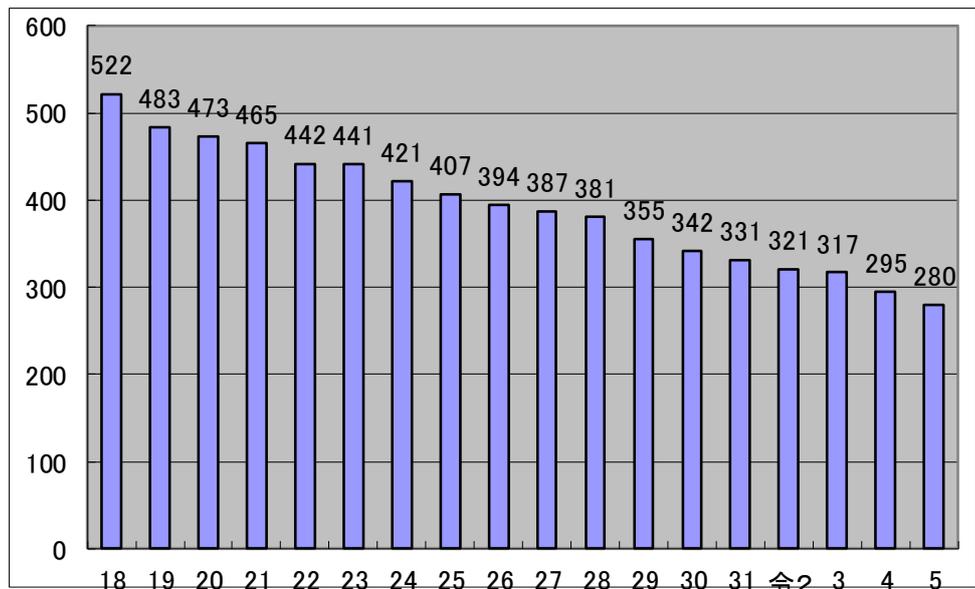
頑張る女性消防隊 ～ 防火・防災の啓発など予防活動 ～

団員数が減っていく中で、女性隊員の活動は大きな力になり、消防団の活力にもつながっている。合併前、女性隊があったのは三岳地域だけであったが、合併後に木曾町消防団にも女性隊が誕生した。当初は数名で活動していたが徐々に人数を増やし令和6年1月現在、18人もの団員が活動している。

女性隊は、応急救護方法の取得や防火防災の啓発といった予防活動が主な役割になる。啓発活動では、パンフレットを使うなどして消防団の活動を町民に知らせている。また、町内のこども園に出向いて、

～平成18年の合併以来240人減少～

木曾町消防団員数の推移(基準日4月1日、単位:人)



本部支援業務に当たる女性隊員ら

紙芝居などを通じ子どもたちにも火災の恐ろしさや火の用心の大切さを伝えている。そのほか火災想定訓練などの際には、団員や被災された方への救護など支援業務の訓練を行っている。

団員の士気高めるラッパ隊、音楽隊

～ 消防団の式典や行事で吹奏（演奏）～

ラッパ隊や音楽隊は、消防団の式典や行事で吹奏（演奏）し、団員の士気を高める重要な役割を担っている。先月の消防団出初め式の式典や分列行進の際に、その役割や重要性を痛感した。あの音や響きを耳にすると、身が引き締まり背筋がピンと伸びるような思いがする。

昨年3月には音楽隊やラッパ隊などによる木曾町消防団音楽隊結成25周年記念演奏会が文化交流センターで行われ、多くの町民らが迫力あふれる音色を楽しんだ。
 演奏の一部を動画でご覧になれます。



音楽隊とラッパ隊による合同演奏（昨年3月）

分団長以下の年額報酬を改定

～ 火災や水害、震災などの出動手当も～

消防団員は自分の仕事のかたわら町民の安全・安心な暮らしを守るため、日々訓練を重ね大変苦勞されている。そこで以前から団員報酬など処遇改善については、議会でも度々取り上げられ少しずつ改善されてきている。ところが依然として国が示す報酬基準よりも低い状況が続いていたことから、このたび消防委員会の話し合いを経て12月の議会で審議が行われ、国が示す年額報酬（団員）36,500円をベースに分団長以下の報酬が改定されることになった。

また、火災や水害、地震災害などの際の出動手当についても改正が行われ、従来は1回（4時間まで）3,000円だったものが4,000円に、4時間以上の6,000円が8,000円に改正される。

団員報酬、出動報酬ともに施行期日は本年4月1日。

改正された消防団員報酬（円）

階級	改定前	改定後
団長	170,000	同左
副団長	151,000	同左
本部長	100,000	同左
分団長	65,000	80,000
ラッパ隊長	65,000	80,000
音楽隊長	65,000	80,000
女性隊長	65,000	80,000
副分団長	45,000	60,000
ラッパ副隊長	45,000	60,000
音楽副隊長	45,000	60,000
女性副隊長	45,000	60,000
部長	31,000	46,000
班長	25,000	40,000
団員	18,000	36,500

改正された出動報酬（円）

区分	改定前	改定後
水火災・震災（4時間まで）	1回 3,000	4,000
水火災・震災（4時間以上）	1回 6,000	8,000
警戒・訓練など	1回 3,000	同左



消防団による火災想定訓練



小林 涼子さん

白樺の樹皮でアクセサリーやカゴ作り ~折れやすく力加減が難しい~

新地蔵トンネルを抜けて開田高原へ入ると両側に広がる白樺林が来訪者を迎える。

白樺は旧開田村の村木で、今でも開田高原のシンボルだ。

小林さんは、そんな白樺の樹皮を使ってカゴやアクセサリーなどを作っている。国内ではあまり目にすることはないが、白樺細工はフィンランドなどの北欧やロシアでは長い歴史のある伝統工芸品。

小林さんが始めたのは5年ほど前になる。きっかけは雑貨店で見かけたり、白樺細工の記事が載った雑誌を読んだりしたことで、「白樺の木も一杯あるし、こういうのが開田高原でできたらいいなあ」と考えたこと。

白樺の樹皮を剥ぐのに適した時期は梅雨時の7月頃。カッターナイフで樹皮を剥いでから時間をかけて干し、その後テープ状にカットしてから使う。「白樺テープは折れやすいので、その力加減が一番難しい」と話す小林さん。3人の子育てをし、会社勤めをしながら合間を見て白樺細工を楽しんでいる。休みの日には小6



白樺の樹皮で作られたアクセサリー

の海晴くんも一緒に手伝ってくれる。出来上がった作品は町内の店舗で販売しているほか、フリーマーケットなどにも出品している。

2年ほど前には友人と2人で地域協議会の中に白樺部を立ち上げ、生後1歳を迎えた子どもに白樺の王冠をプレゼントする取り組みも始めた。開田小学校では児童らに御嶽山をかたどったブローチ作りを教えるなど活動の幅が広がっている。また、去年は自身の作品を掲載したミニレターを作り観光案内所や知り合いの旅館などで販売している。「これからも開田高原の素材を生かしたいろんなお土産品を作りたい」と夢が膨らむ。



開田高原を代表する白樺

私の本棚 『ハヤブサ消防団』(池井戸潤 著・集英社)

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷である八百万(よおろず)町ハヤブサ地区に移り住んだミステリー作家の三馬太郎。すぐに消防団に勧誘され迷った末に入団する。ポンプ操法大会に向けた訓練や行方不明者の捜索活動、お祭りの会場警備など、私がかつて消防団で経験したことと同じようなことが各所に描かれておりとても興味深い。やがてのどかな集落に連続放火事件が発生する。犯人はいったい誰なのか。目的は何なのか。なぞは一層深まっていく。これは昨年、テレビ朝日系のドラマとしても放送された。



編集後記

今年の元旦は雪がなく、今までに記憶がないほど穏やかで暖かな一日になった。ところが夕方、能登半島地震など思わぬ出来事が続き、悲しい新年の幕開けとなった。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com



Facebook